

めぐみイエス・キリスト教会

2025年6月1日(日)第一主日昇天礼拝

午前10時より

週報「通算第761号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌136「御霊よ降りて」 p. 192

【交読文】 No.54 ヨハネの福音書15章(抜粋) p. 923

【賛美Ⅱ】 新聖歌385「主よ終りまで」 p. 620

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「聖霊の風」

【聖書朗読】 ルカの福音書24章44節～53節 (p. 174上段)

【礼拝説教】 《主イエスの昇天》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書24章44節～53節)

24:44 そしてイエスは言われた。「私がまだあなたがたと一緒にいたところ、あなたがたに話した言葉はこうです。私について、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません。」

24:45 それからイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、
24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。『キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。』エルサレムから開始して、

24:48 あなたがたは、これらのことの証人となります。

24:49 見よ。私は、私の父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

24:50 それからイエスは、弟子たちをベタニアの近くまで連れて行き、手を上げて祝福された。

24:51 そして、祝福しながら彼らから離れて行き、天に上げられた。

24:52 彼らはイエスを礼拝した後、大きな喜びとともにエルサレムに帰り、

24:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

●ポイント1. 昇天の預言とは？

※ヨハネの福音書3章13節～14節「ニコデモへの言葉」(新約p.180)

3:13 「だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。

3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。」

●ポイント2. 主イエスの祝福とは？

※マタイの福音書28章18節後半～20節「ガリラヤにて」(新約p.64)

28:18 「私には天においても地においても、すべての権威が与えられています。

28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

28:20 私があなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます。」

●ポイント3. 大きな喜びとは？

※使徒の働き1章10節～11節「オリーブ山にて」(新約p.232下段)

◎先々週のメッセージ【主イエスの栄光(ヘルモン山にて)】

《さて、ペテロのキリスト告白は、ヘルモン山麓にあります「ピリポ・カイサリア」にて行なわれましたから、主イエスはヘルモン山に登られたことは間違いありません。この時、主イエスは、シモン・ペテロと、ゼベダイの子ヤコブとヨハネだけを連れて行かれたのです。

さて、主は祈る為に、この場所に来られました。そして、三人の目の届く距離から離れて、おそらく数時間以上祈られたのではないのでしょうか。なぜなら、弟子たちは眠くてたまらなくなっていたからです。

そして祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いたのです。この時、主は、三人の弟子たちに、「神の御子」としての栄光を現わされました。そして、モーセとエリヤが現われ、主がエルサレムで遂げようとしている最期について、話し合ったのです。

この時、なぜ弟子たちが、一人はモーセであり、もう一人はエリヤであることが分かったのでしょうか。そのヒントは衣にあると思います。

エリヤは、らくだの毛の衣をまとい、腰には革の帯を締めていましたし、モーセは、トレードマークである「羊飼いの杖」を持っていたのではないのでしょうか。その時、突然、大きな声が響き渡ります。

「これは私の選んだ子。彼の言うことを聞け。」

この声は、父なる神様の御声であって、弟子たちに向けて発せられたのです。後日、ペテロは、その書簡において、証しています。

『この方が父なる神様から栄光を受けられた時、厳かな栄光の中から、このような御声がありました。「これは私の愛する子。私はこれを喜ぶ。」私たちは聖なる山で主と共にいたので、天からかかったこの御声を自分で聞きました。』と。実は、この言葉は、主がバプテスマを授けられた時に、発せられた言葉です。この声は、私たちにも向けて語られています。私たちは、神の子どもとされました。父なる神様は、私たちを愛しておられ、また存在そのものを喜んでおられるのです。》

◎お知らせ

※2025年6月8日午前10時より、ペンテコステ礼拝を行ないます。